

# 【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる

## 中間評価（R5.9.30時点）

### 一次評価

評価指標において、人口の社会増減が大きくマイナスに転じていることから、「くりちゃんバス等の利便性向上のための動態調査の実施」により、課題の抽出・検討を行い、住環境の向上に取り組んでいく必要があります。

加えて、8050問題や引きこもり等の社会問題への対応として、「コミュニティソーシャルワーカーの配置支援」や、「生活支援コーディネーターの配置支援」による総合的な課題解決を引き続き行う必要があります。

### 二次評価

公共交通の充実が人口増加に繋がると考えられるが、計画ではあまり力が入っていないように思える。バスだけに拘らず、栗東駅への新快速停車等のJRへの要望を引き続き行われたい。また、地域に必要な人材であるコミュニティソーシャルワーカーを増やすため、資格取得や養成していくための支援をしていたきたい。

## 年度評価

### 一次評価

数値目標の“人口の社会増減”は令和3年度より減少に転じており、減少幅は年々、増加傾向にあります。また、重要業績評価指標KPIのうち“20～40歳代の人口維持”についても、数値が低下傾向にあります。このことから、空き家の利活用やくりちゃんバス等の利便性への取組など、良好な住環境の整備を促進し、転出抑制への取組をさらに強化する必要があります。

また、誰もが役割を持てる地域共生社会の実現に向け、「コミュニティソーシャルワーカーの配置支援」や、「生活支援コーディネーターの配置支援」を継続して行う必要があります。

### 二次評価

観光消費額の増加は、1人あたりの消費額の増加に加え、観光入込客数も増加していることが要因となっている。また馬を活用したまちづくりも進んでいることから、市の魅力あるまちづくりができていると評価できる。

就労の場や一定の住環境が整いあり、利便性も良いというまちの魅力をもっと広く知ってもらう取組を進められたい。

個々の生活様式やライフステージごとに異なる住宅ニーズがあることから、長く住んでもらうためには、住み方の選択肢が広がることが重要であり、そのため多様な居住条件を充足できる支援策や居住環境の整備を進められたい。

人口確保・定着に繋げるには時間がかかるが、少しでも効果の見受けられる事業は継続されたい。

## 【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

### 中間評価（R5.9.30時点）

#### 一次評価

不登校生徒在籍率低下の取り組みとして、「学校サポート支援員の各校配置」、「いじめ等対策参事員の設置」や、家庭的要因への対策として「スクールソーシャルワーカーによる支援」を行っていますが、不登校生徒が増加傾向にあり、その対応にかかる人的資源が不足しています。不登校生徒すべてに関わるには、増員等の検討が必要とされています。

評価指標においては、数値目標(KPI)の合計特殊出生率が更新され、令和3年数値は1.84と令和2年数値1.82から増加しています。本市の特徴である、高い合計特殊出生率の維持向上のために、「栗東市結婚新生活支援事業の実施」や「赤ちゃんおむつ等の購入費用助成」など、結婚・出産・子育てへの一貫した支援を引き続き行っていく必要があります。

#### 二次評価

人的資源の不足について、現実的に人口減少の中での増員は難しい。国がデジタル田園都市国家構想としてICTの活用を推進していることから、今後はICTを活用して人材不足をカバーしていく必要があることを踏まえ、不登校生徒等の問題に対応されたい。

出生率を高めるために、独身世帯に対する結婚支援等を県と連携しながら進めていただきたい。

### 年度評価

#### 一次評価

数値目標の“合計特殊出生率”は減少傾向にあるものの、全国的に見れば高い水準にあります。本市の特徴である、高い合計特殊出生率の維持向上のために、「栗東市結婚新生活支援事業の実施」や「赤ちゃんおむつ費用助成事業の実施」など、結婚・出産・子育てへの一貫した支援を継続して行っていく必要があります。

重要業績評価指標KPIのうち“待機児童数の解消”については、利用児童数の増加により、待機児童が増加傾向にあることから、法人園の新設や公立園のこども園化、保育人材の確保等に引き続き取り組む必要があります。

また、“不登校生徒在籍率”が増加傾向にあることから、引き続き「学校サポート支援員の各校配置」、「いじめ等対策参事員の設置」や福祉と教育をつなぐ「スクールソーシャルワーカーによる支援」の継続が必要です。

#### 二次評価

結婚新生活支援事業や赤ちゃんおむつ費用助成事業などきめ細かな対応は、高く評価でき、生活の支えにもなる有意義な取組であるため継続されたい。なお、市内に住む若い世代に子育て環境の良さをアピールすることも必要であり、積極的に努力されたい。

基礎学力向上の努力により、小学校6年生の理解力が向上しており、引き続き、地道な取組であるがこれらを進め、教育環境の魅力を高められたい。

いじめや不登校の問題は、難しい課題であるが、学校だけでなく地域全体で監視・指導また連携をしていくことや、各家庭への丁寧な支援ができるまちづくりに努められたい。

# 【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる

## 中間評価（R5.9.30時点）

### 一次評価

評価指標より、就業者数は増加しているものの、事業所立地数は減少しており、栗東市の経済活力に影響を与える事業所立地への取り組みを重視して行う必要があることから、「信用保証料助成制度の実施」等による市内企業の経営基盤の強化を図るとともに、下半期は令和6年1月より開始する「創業支援融資利子補給金制度の実施」等の市内で創業する事業者への支援も行っていく必要があります。

### 二次評価

市内における職の有無は人口の社会増減にも大きく関わっており、新たな産業の立地がまちの発展につながっていくと考えられる。新型コロナウイルスの終息に伴い、企業の立地意欲が高まっていることから、機会を逃がさないように尽力いただきたい。

## 年度評価

### 一次評価

重要業績指標である“従業者数”“市内事業所の総売上”は目標を上回る水準となっているものの、数値目標の“事業所立地数”は減少していることから、既存事業者への支援策と企業立地の促進や創業活動への支援策を継続して行う必要があります。

また、農業の生産性向上や担い手支援を図り、農業の活性化を推進する必要があります。

### 二次評価

数値目標の事業所立地数は未達成ではあるが、就業者数や売り上げ額の増加など「しごと」に関する全体的な取り組みの効果は出ていていると感じられる。  
経営基盤の強化は雇用に必要な不可欠であり、安定経営は人材確保にも繋がるし、翻って雇用の確保が経営改善にもつながることから、個人のニーズと事業者のニーズとのマッチングを丁寧に進めていかれたい。  
産業の活性化には新規開業など立地件数を伸ばすための取組の継続が必須であり、そのための環境整備の努力が求められるが、これに加えて、地元企業の育成とあわせた人材確保にも取り組まれない。

## その他意見

- ・各取組の達成率は総じて高いものの、数値目標や重要業績指標は未達成が多く、取組と数値目標、重要業績指標との関係性が分かりにくいことから、今後の課題として主な取組がどのように貢献・寄与したのか、つながりを見えやすくする工夫が必要ではないか。
- ・数値目標や重要業績指標が短期的に効果が見られるものと長期の蓄積が必要なものがあるため、その使い分けが必要ではないか。
- ・未達成の取組については、反省の手がかりと捉え問題を発見するため個別の分析を試みたうえで達成に向けた具体的な対策を講じ、事業の進め方に工夫を図られたい。